

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1999. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



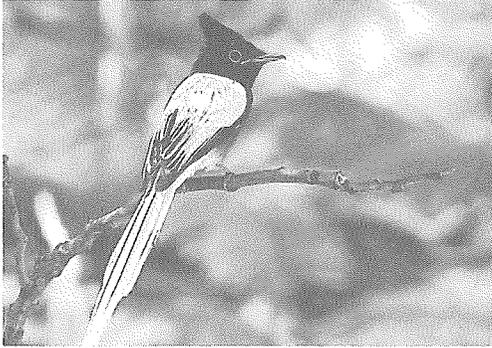
NO. 187

日本野鳥の会 埼玉県支部

ケニア西部バードサファリから

海老原美夫（浦和市）

●アフリカサンコウチョウ（ヒタキ科）



African Paradise Flycatcher

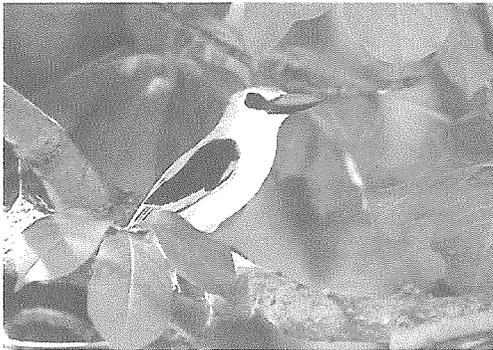
1999年7月、17名のツアー一行が4台のサファリカーで旅を続けたケニア西部バードサファリでは、現地滞在の9日間で380種に出会い、私が撮影できたものだけでも170種にのぼった。

バリング湖畔での宿泊は、広大な敷地にコテージが並ぶレイクバリングクラブ。強い日差しの中庭に出た途端、驚くほど多くの数と種類の鳥達が賑やかに出迎えてくれた。アフリカサンコウチョウも、枝から枝に軽やかに飛びかっていた。

西南部を除くサハラ以南のアフリカに分布し、白色型とそうではない普通のタイプがある。この写真は白色型のオス。

地鳴きは日本のサンコウチョウと似た声が聞こえたが、さえずりは聞こえなかった。

●セネガルショウビン（カワセミ科）



Woodland Kingfisher

アフリカサンコウチョウの撮影を終わって

ふと湖畔の林に目をやると、そちらの葉陰にも何か白い鳥。

大きな嘴の上は赤く、下は黒い。セネガルショウビン！ 凶鑑などで、はるか遠いものと思っていた鳥との、あっけない出会い。もう少し劇的なところで会いたかったなと贅沢を言いながらカメラを向ける。アフリカのサバンナや、明るい林に生息する。識別が分かりやすいところが私の好み。撮影し終るまで十分待っていてくれたのも気に入った。

飛び去った後、その林の方にぶらぶら行ってみると、今度は棧橋根もとの水際に、大きなワニがどでんと横たわっている。

クラブの庭にさりげなく立っていた看板には、「野生動物は危険な事があります。午後7時以降、ここより先には立ち入らないください」。安全対策はこれだけ。気持ちいほど「自己責任」の世界。

その夜、食事を終わって部屋に戻ろうと庭を歩いていたら、ガードマンがなにやら警戒しているそばで、白人女性が二人、はしゃぎながらコンパクトカメラのストロボを光らせている。透かしてみた闇の向こうに、カバの巨体が数頭動いていた。

さすがにこの時間帯はクラブ側の対応もあるようだが、あの暗さであの距離、彼女らの写真は多分何も写っていなかったろうな。

●ヒガシスミレコバシタイヨウチョウ（タイヨウチョウ科）



Kenya Violet-backed Sunbird

世界中の鳥に日本語の名前をつけた人は、苦労したろうと思う。今回の旅で見た鳥のうち、最も名前が長いのがこれ。

英名のSunbirdをそのまま訳して、タイヨウチョウ。タイヨウチョウ科の鳥は、虫も食べるが、主に花の蜜を吸う。それに適した湾曲した細長いくちばしを持つものが多いのに、短めのくちばしのグループがいる。コバシタイヨウチョウという属名がつけられた。

その属の中で、背中がスマレ色に輝く鳥なので、スマレコバシタイヨウチョウ。西アフリカに住むスマレコバシタイヨウチョウと、東アフリカに住む種は違うので、東の種にヒガシを追加してヒガシスマレコバシタイヨウチョウと、ついにカタカナで16文字。まるでジュゲムジュゲムの世界。

●ウツクシオナガタイヨウチョウ (タイヨウチョウ科)



Beautiful Sunbird

タイヨウチョウ科のなかで、中央尾羽2枚が突出して長い鳥たちがいて、オナガタイヨウチョウ。その中で特に美しいので、英名でBeautiful、日本名でウツクシとつけられた。頭、背、首、下腹などは様々な色調の輝く金属光沢の緑色、上腹部は黄色と赤という華やかさは、色鮮やかなアフリカの鳥達の中でもかけはなれている。

羽鱗をとらえて、カワセミが魚をたたきつけるように枝にたたきつけ、羽根を取り去って飲み込んでいた。

●フタツハバシゴシキドリ (ゴシキドリ科)

ケニアといえば、赤道直下の猛烈な暑さ、ヌーの大群やライオンのいるサバンナ、うっ



Double-toothed Barbet

そうとした密林などを連想する方が多いと思う。

ところが、先ず、ケニアは国全体が標高の高いところに位置するので、予想外に寒い。7月はケニアの冬に当たる事もあって、ずっとセーター類が手放せなかった。風が吹き抜けるサファリカーの上では、雨合羽まで着込んでしまったほどだ。

サバンナは想像通り広がっているが、開発が進んで、密林はなくなってしまっているのも意外な事実。

今回の旅の主な目的地は、ケニアに僅かに残された貴重な密林、カカメガの森。3日間滞在したカカメガの森で、ひどく仲の良いパフォーマンスを見せてくれたのは、フタツハバシゴシキドリ。腹が真っ赤で、上くちばしの下縁にあるかき状の突起が特徴。ケニア・コンゴ・南アフリカの森林に生息している。

●カンムリカワセミ (カワセミ科)



Malachite Kingfisher

旅の間中、ずっと遠くからしか見えなかったのに、最後の最後、空港に向かおうとした車の、窓の下に現れてくれてようやくゲット。日本のカワセミとの違いは？

1999年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：1999年9月15日（水・休日）

午前9時30分～11時20分

場所：大久保農耕地（浦和市、大宮市）

天候：晴れ

この日は台風16号の影響で強い風が吹いていましたが、支部会員23名（名簿10ページ）のご協力が得られました。御苦労様でした。

観察された種数・個体数は、4種・114羽で、昨年秋の同所での調査に比較すると、種数で1種、個体数で75羽少なくなっています。

8月下旬の大雨で河川敷は一面に冠水しましたが、9月には記録的な残暑が続き、田が乾きひび割れを起こしていました。そのような状況の中、ムナグロは100羽を越えましたが、今回はそのうちの87羽が、治水橋より上流で観察されました。また、久しぶりにホウロクシギが観察されたのも、珍しい記録になりました。

グラフは、秋のカウント結果のうち、大久保農耕地における、ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

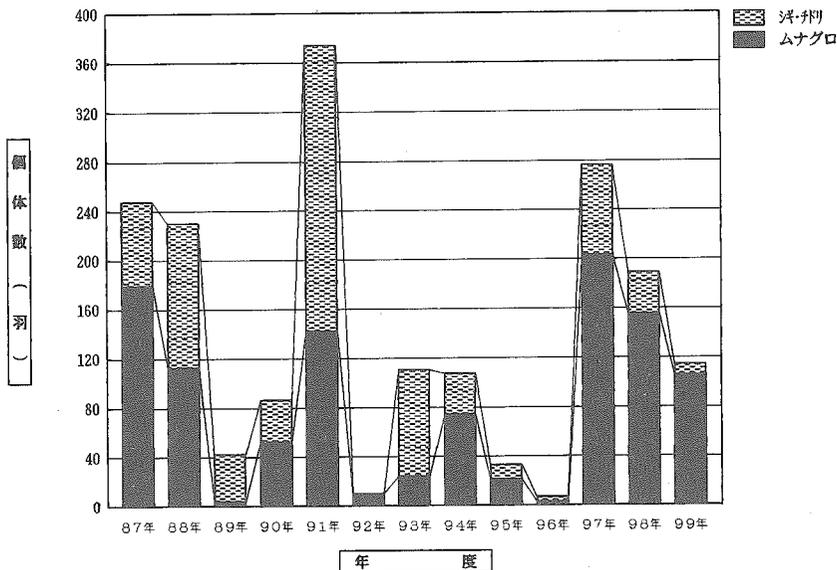
（石井 智）

1996年～1999年 秋のシギ・チドリ類調査結果

調査地	大久保農耕地 浦和市／大宮市			
	'96年	'97年	'98年	'99年
鳥類				
コチドリ	—	13	—	—
ムナグロ	3	203	155	105
エリマキシギ	—	1	2	—
クサシギ	1	—	—	—
クアブシギ	—	4	—	—
イソシギ	—	1	—	—
ホウロクシギ	—	—	—	1
コシャクシギ	—	—	6	—
タシギ	1	51	24	6
オオジシギ	2	—	—	—
ジシギsp.	—	1	2	1
チドリsp.	—	1	—	—
シギsp.	—	—	—	1
個体数合計	7	276	189	114
種数合計	4	8	5	4

（注）シギsp.はタシギかジシギsp.のどちらかなので、種数には入れませんでした。

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●シロハラトウゾクカモメ

目科 チドリ目トウゾクカモメ科

英名 Long-tailed Skua

学名 *Stercorarius longicaudus*

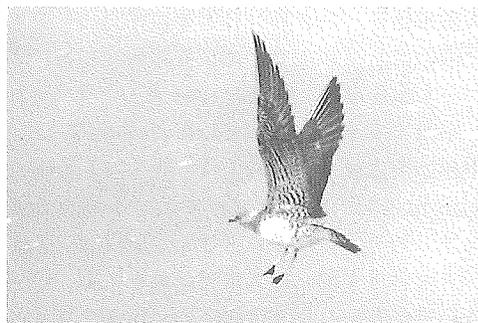
1999年7月12日、行田市下中条の武蔵大橋（利根大堰）付近の利根川で、井上茂会員（群馬県大泉市）が、飛んだり、浮遊物上に降りたりしている1羽を写真撮影（右）した。

当委員会で検討した結果、初列風切の根元部分の大きな白色斑がない事、上面の初列風切の外側2本と下面の初列風切の外側1本が、（根元に近い方がより明瞭な）白色である事、腹部が白くて喉が帯状に褐色である事などから、シロハラトウゾクカモメの非繁殖形態（註）の、成鳥に近い個体と同定した。

写真からは中央尾羽2枚の突出を見る事ができないが、まだ完全な成鳥ではないので短くて見えにくいのか、何らかの事故で欠損した事などが考えられる。

本種は北極圏のツンドラで繁殖して、冬は南アメリカやアフリカの沿岸に渡る。日本では、春の渡りの途中に太平洋岸で見られることがある。

埼玉県内では、1988年4月29日午後11時ころ、浦和市の大久保農耕地（通称A地区）でシギ・チドリ類調査中の石井智・杉本秀樹・佐藤晶人会員によって観察され、清田潔氏（東京支部会員）によって写真撮影された成



鳥繁殖形態（註）の例があり、今回は2例目。

（註：日本の図鑑では「夏羽」「冬羽」という言葉を使っているが、これは繁殖時期に繁殖の為の特別な羽・嘴・足などの形や色彩などになっているものを「夏羽」、それ以外のものを「冬羽」と呼んでいるのだが、繁殖時期を過ぎた夏の間に既に冬羽に変わってしまうものや、夏になっても冬羽のままのもの、あるいは春先には既に夏羽になっているものなど、必ずしも夏と冬という季節とは一致しておらず、特にまだあまり慣れていない人達の混乱の元になっている。

英語の図鑑では「BREEDING」と「NON-BREEDING」という言葉を使っている。これは文字通り「繁殖」と「非繁殖」という意味。

また、繁殖時の特徴は羽根だけに現れるのではなく、嘴・足などにも全体的に現れるので、少し固い言葉になるが、「繁殖形態」と「非繁殖形態」と表現した。）

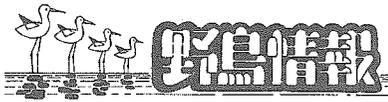
フクロウに会ってしまった 浅見健一（大宮市）

林の中でいやにカラスとオナガが騒がしいのです。林に入る小道を3メートルほど進んだところで、突然、右側の腰より低い位置から大きな羽音（葉音？）。上面褐色の大形の鳥が飛び出したのです（野鳥情報に報告済）。タカだ！と思った途端に恐怖感（それ程間近なのです）…。そして約4メートル前方の横枝にこちらを向いて止まりました。独特の顔と黒い両目でじっと私を見つめています。下面は白っぽく縦斑があります。

まさにフクロウ！。

一瞬体中に鳥肌が立ち、驚きと感動で立ちすくみました。わずか10数秒の出来事でしたが、あの少々縦長の物静かな黒い眼がとても印象的で、今でもはっきり思い起こせます。

私は常々、憧れのノジコ、フクロウ、コアオアシギ（冬羽）の3種に会えたら、バードウォッチングを止めてもいいと家族に公言しています。それが今はコアオアシギを残すのみとなりました。もし会えたらどうしたらいいのでしょうか。多分、永遠に私のリストに載らない鳥になってしまうのでしょうか。



大宮市藤子 ◇8月31日午後4時30分頃、遊水池のフェンス上でオオタカ若鳥1羽。舞い降りて水を飲む。周りのハクセキレイ4~5羽、平気でうるついでいました(鈴木紀雄)。

川越市南古谷 ◇9月1日午後1時30分頃、JR川越線南側でタシギ多数、イカルチドリ、コチドリ。タカブシギ5羽以上、アオアシシギ1羽、コアオアシシギ4羽、イソシギ1羽、ヒバリシギ2羽、ムナグロ多数。9月4日、カルガモの中にコガモとハシビロガモ♀1羽(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜沼 ◇9月2日、上沼で上空にオオタカと思われる9羽の飛翔を見ることができた。澄んだ青空に白雲が浮かび、近くの森の緑、大きなキャンパスいっばいに弧を描きながら、時にディスプレイフライトを見せ、翼下面をキラッと輝かせていた。双眼鏡を持たずに来たことを悔やんだが遅かった。これからの季節、黒浜沼の上空でよく見られる光景です(道祖土修一)。

伊奈町伊奈総合学園高校 ◇9月3日、近くの遊水池でコガモ4羽初認(鈴木紀雄)。

川本町荒川 ◇9月11日、明戸堰上流でクサシギ1羽、キアシシギ1羽、イソシギ2羽、ショウドウツバメ2羽、カワウ約350羽、ダイサギ15羽、アオサギ3羽、コサギ11羽。8月の大雨以来すっかり様子が変わり、上流からの砂利で、岸の面積が1.5倍程に広がった。また、浅瀬がかなり増えたようで、



珍種? 尾羽がないアカモズ(手塚正義)

サギの数が多くなった(後藤康夫)。

菫蒲町上大崎 ◇9月12日、水の張ってある休耕田でコアオアシシギ1羽、タカブシギ4羽、キリアイ1羽、ヒバリシギ3羽、タシギ7羽。近くの畦道でジシギ sp 2羽(中島康夫、郁夫)。

大宮市日進町1丁目 ◇9月12日、フクロウ1羽。ごく身近な場所で思いもかけない鳥と出会いびっくり。移動の途中か、その後はもう会えませんでした。10月3日、サメビタキ3羽、コサメビタキ1羽。松林の中「ジィ、ジィ」、「ツイー」と聞こえる小声で鳴きながら時々4羽で追いかけて。キビタキ♂1羽。シジュウカラの群れを見ていたら突然鮮やかな鳥が現れびっくり、秋に会えたのは初めてです(浅見健一)

蓮田市元荒川 ◇9月13日、川島橋付近でカワセミ1羽。橋の上流に作られた魚礁近くの杭にとまり、暫く水面を見ているうちにダイビング。嘴よりもはるかに大きな魚を捕らえるのを見ることができた。さらに数回ダイビングを見せてくれたが、突然現れたセグロセキレイに追われ、低空で2度行き来して、対岸の方向へ飛び去った(道祖土修一)。

浦和市秋ヶ瀬 ◇9月13日、大久保農耕地B区でオオタカ若鳥1羽、ミサゴ1羽(鈴木紀雄)。◇10月10日、羽倉橋上流でジョウビタキ♂♀?(手塚正義)。

浦和市大久保 ◇9月15日、大久保小学校付近でシラコバト1羽(陶山和良)。

草加市草加公園 ◇9月16日、北側の斜面でツツドリ赤色型1羽。赤くスマートな姿はカッコいいですね(鈴木紀雄)。

岩槻市太田 ◇9月17日、実家の庭でヨウシユヤマゴボウの黒い実を食べに来たヒヨドリ親子を見ていたところ、コムクドリ♂1羽も食べに来たが、2粒食べてすぐに飛び去ってしまった(鈴木紀雄)。

浦和市駒場 ◇9月18日、駒場サッカー場で浦和レッズ VS 名古屋グランパスエイト観戦中の午後9時頃、アカエリヒレアシシギ20羽位の群れが上空を何回か旋回した。時間にして30分位。試合は、残念ながらレッ

ズのVゴール負け。J1残留が危うくなってきた(中島郁夫・高子)。…凶鑑にも野球場のナイター戦に飛来することができています。珍しい記録だと思います(中島康夫)。

寄居町鐘撞堂山 ◇9月19日午前7時50分～午後12時30分、サシバ3羽、オオタカ2羽、ハイタカ1羽、ツミ1羽、トビ1羽。サシバ、ハイタカ、ツミ各1羽づつ互いにモビング。ツミが最もすばやく攻撃的だった。ツバメ1羽、モズ2羽、ヤマガラ1羽。モズは高鳴き、ヤマガラは何度も来ては、エゴの木のまだ青い実をくわえて運んでいた。大正池でゴイサギ成鳥1羽。9月23日午前9時頃、アオバト1羽。谷を飛翔、上から見下ろす感じで観察。カケス10数羽。午前10時23分、サシバ8羽、ハチクマ1羽。午前11時15分、サシバ6羽、ハチクマ1羽。午後12時、ハイタカ1羽。午後12時30分、ハチクマ2羽。午後12時58分、サシバ4羽。いずれも秩父方面へ去って行った(後藤康夫)。

戸田市道満彩湖 ◇9月21日、やっと来ましたコガモ2羽。9月25日、コガモ20羽、ヒドリガモ2羽。春ごろからあまり見かけなくなったが、チョウゲンボウ♀1羽。栈橋と管理橋の中ほどに少々早めのハジロカイツブリ1羽(倉林宗太郎)。

上里町神保原駅前 ◇9月25日、ミサゴ1羽、チョウゲンボウ♂1羽。いずれも北東より南西へカラスにモビングされ飛行。鳥を見に来たわけではなかったけれど得をした気分(浅見健一)。

東松山市都幾川 ◇9月26日午前7時、稲荷橋付近でマガモ13羽、イソシギ2羽、カワウ2羽、モズ3羽(後藤康夫)。

東松山市物見山 ◇9月26日午前8時30分～

午後12時、サシバ4羽、カケス5羽(後藤康夫)。

浦和市西浦和 ◇9月28日、西浦和小学校上空をチョウゲンボウ1羽通過(陶山和良)。

三郷市江戸川 ◇9月28日、中川排水機場付近の河川敷でノビタキ1羽。近くの江戸川中洲でカワセミ♂1羽。さかんにダイビングしていた(岩瀬和志)。

浦和市別所沼 ◇9月30日、カワセミ1羽～2羽。毎朝散歩の折、沼奥の中洲の杭にとまっているのを見て3年目。恋でもしたのか、この頃はすっかりきれいになった(小川力雄)。

大宮市大成町1丁目 ◇10月2日、切敷川でコガモ27羽。汚れた川ですが、旅の途中に一休み。カワセミ1羽。魚などいそぎもない川なのに不思議です(浅見健一)。

大宮市三橋1丁目 ◇10月3日、鴨川でコガモ10羽、オナガガモ1羽。ツバメspが3羽、上空高く風に乗る南へ飛び去って行った。上面：黒、下面：白、燕尾ではなかった(浅見健一)。

春日部市増田新田 ◇10月3日午後1時25分頃、自宅上空でアマツバメ約20羽。寒冷前線の通過でにわか雨が降り出し、2階ベランダの洗濯物を取り込もうと出て、ふと上空に目が行ったら、大きく旋回しながら南南西方向へ飛び去って行くのが見えた(石川敏男)。

蓮田市笹山 ◇10月10日午前9時頃、元荒川岸の田んぼでノビタキ5羽。農道を自転車で通り抜けようとしたとき、数羽が飛び立ち、各所を飛びかっただ後、50m位先の少し高い草にそれぞれ別れてとまり、しばらく採餌していた(田中幸男・和子)。

表紙の写真

ズアカアオバト (ハト目ハト科アオバト属)

撮影：手塚正義 (川口市)

フィリピンから台湾、日本では奄美大島より南の南西諸島の常緑広葉樹林に、留鳥として生息している。台湾に生息する亜種の頭頂部が、光沢のある明るい赤銅色なので「ズアカ」とい

う名前がついているが、日本に生息する亜種は頭は全く赤くない。

腹が白いアオバトに比べて本種は腹まで緑色で、下尾筒の明瞭なうろこ模様が特に目立つのが特徴。(解説：編集部)

行事あんない



(何森 要)

長野県・白馬山麓探鳥会 (要予約)

期日：11月6日(土)～7日(日)

定員に達しましたので締め切りました。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月7日(日)

集合：午前7時30分、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:07発にて「前原」下車、徒歩約10分。

担当：浅見(健)、大坂、高(文)、阿久沢、高(彪)、永野(安)、永野(京)、宇原

見どころ：ちょっと早起きして早朝の公園周辺で、去っていく秋と、訪れる冬の気配を感じてみませんか。きっとジョウビタキ、アオジ、シメなどに会えるはずです。

新潟県・湖、池、潟めぐり探鳥会(要予約)

期日：11月11日(木)～13(土)

定員に達しましたので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：緑も少なくなり、ほほを撫でる風

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

も冷たく感じるようになってきましたが、鳥が見やすくなるうれしい季節です。今年もジョウビタキ、ツグミ、カシラダカがそろそろお出まします。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月14日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口。

担当：高草木、佐久間、石井(幸)、志村、中村(治)、神場、下川、中村(祐)、荒木、中村(隆)

見どころ：浦所街道に面した唯一のたんぼと、川が流れる場所。カモ類が餌を採る様子を近くでゆっくり見ましょう。タゲリ、タシギ、ジョウビタキも待っています。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺(周)、笠原、若林、兼元、森、清水、前澤

見どころ：今年もあと一月あまり、晩秋の芝川にはたくさんのカモたちがやってきた。カモたちの鳴き騒ぐ声が聞こえる。晴れの日には、秩父の山々が見沼たんぼの向こうに見える。杭には

ジョウビタキの雄がとまっている。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月23日（火・祝）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口東武1番バス停前。集合後バスで現地へ。8：45発にて「高野台」下車。または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

担当：吉安、中村（榮）、橋口、入山、篠原、新井、松永、吉岡（明）

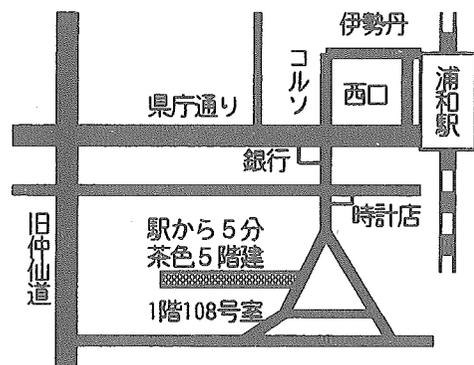
見どころ：去り行く秋の内牧公園をゆっくりと歩きましょう。ツグミ、シメ、タヒバリなど、いつもの冬鳥たちの顔ぶれも揃ったところ。久しぶりに彼等たちとの出会いを楽しみましょう。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：11月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：11月も末ともなると、秋から初冬への季節の移り変わりがよく分かる。木枯らし、小春日和、初霜、山沿いに初雪などと、一気にやってくる感じがする。でも変わらないのは月末土曜日の「袋づめ」。創刊以来多くの人の協力で欠くことなく続けてきています。今月もよろしくご協力をお願いします。



狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢

8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：今年も入間川にカモたちが戻ってきました。冬の小鳥たちもあちらこちらで見られます。森の中では、カラ類の混群やカケスを探しましょう。

大宮市・梁谷見沼自然公園探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場（浦和さぎ山公園南西隣）。

担当：工藤、浅見（健）、兼元、森、吉岡（洋）、日根、山口

見どころ：見沼たんぼを流れる加田谷川に、9月15日にコガモの第1陣が飛来しました。お疲れさんと、つい声を出して挨拶をしてしまうのが不思議です。初冬のこの周辺には冬鳥たちが勢揃いしています。師走を控えての一日、一息入れにお出かけください。

野田市・清水公園探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前9時30分、清水公園仁王門前。

交通：東武野田線大宮8：22発、春日部8：49発柏行きにて清水公園下車。徒歩約10分。

担当：中村（榮）、新井、吉岡（明）、田邊、本田、大塚、小菅

見どころ：初登場の探鳥地です。公園と湿地や遊水池の周辺をゆっくりと歩きます。冬鳥たちも出揃い、皆さんのお出かけを待っていますよ。ルリビタキ、アオジ、カワセミ、カモの仲間たちを探しましょう。

●12月の行事予定

12月4日（土）蓮田市黒浜沼探鳥会

12月5日（日）北本市石戸宿定例探鳥会

浦和市民家園周辺定例探鳥会

12月23日（木・祝）年末講演会

行事報告

8月15日(日) 浦和市 三室地区

参加: 44人 天気: 曇一時雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ ササゴイ カルガモ ツミ バン キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 探鳥会を開催するのに工夫のいる季節である。先祖を考える、いのちのつながりを感じる旧盆。昭和を生きた人には、終戦記念日。そして、自然の山河がある喜び。そんなことを考えた例会は、鳥も、ツミ、ササゴイ、カワセミなどこの時期としては多い27種。参加者も多く大変楽しく意義のある例会だった。

(楠見邦博)

8月29日(日) 千葉県 船橋海浜公園

参加: 37人 天気: 晴

ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ スズガモ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン ミヤコドリ キョウジョシギ トウネン キリアイ ハマシギ オバシギ ミユビシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オオソリハシギ ダイシャクシギ チュウシャクシギ ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ セッカ スズメ ムクドリ (32種) この夏は特に暑いが、早くもミヤコドリが13羽も来ているとの情報。逸る心で見に行ったが、なんと1羽のみで、あとは他に移動したとのこと。それではと、シギ・チドリ等をじっくりと観察中、東防波堤の方でエリマキシギが出たが、一足遅くて見られず、残念。最後にハジロカイツブリが近くで見られた。

(佐久間博文)

9月5日(日) リーダー研修会

場所: 北本市中央公民館 参加: 51人

本部ネイチャースクールから法月稚津余氏と斎藤英一郎氏が参加。新規受講者11人に役員・リーダーを合わせて総勢51人が集い、今回も充実した研修会となる。研修の中心は、何と言っても探鳥会での安全管理だが、探鳥マナーの啓発など、探鳥会が果たす社会教育的側面の充実も大きな課題である。リーダー研修会を、支部の事業を運営するための「最小限の共通認識を得る場」と位置付けてみたい。終了後の懇親会にも30人の参加があり、大いに盛り上がった。

(榎本秀和)

9月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 50人 天気: 晴

カイツブリ ミミカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ ノスリ イソシギ キジバト ツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 炎天下の探鳥会となった。土手の道を進んでも目に付くのはムクドリ、ヒヨドリばかり。暑さで疲労も極限に達しかけた頃、はるかかなたの空に久々のノスリ。続いて、ご当地初登場のミミカイツブリが、なんとゴルフ場の池で潜水を繰り返していた。大雨で河川敷もかなり荒れ、自然環境は悪くなっているが、コサメビタキ、ショウドウツバメを確認したとの情報もあり、渡りが始まっていることが感じられた。

(和田康男)

9月15日(日) シギ・チドリ類カウント

ボランティア: 23人

石井智、伊藤幸子、海老原教子、大坂幸男、倉林宗太郎、朽木宏、久保田忠賢、後藤康夫、小林茂、小林ますみ、坂本孝一郎、佐久間博文、島田恵司、島田沙緒里、杉原みつ江、鈴木紀雄、陶山和良、高尅法、高文子、馬場友里恵、増田徹、松井昭吾、山原忠義◆強風の中、浦和市の秋ヶ瀬地区で行われた。

9月18日(土) 松伏町 古利根川

参加: 26人 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ケリ イソシギ シラコバト キジバト カワセミ ツバメ ハクセキレイ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 毎年晦となっていた古利根川河川敷が7月に下草を刈られてしまい、心配していたが、案の定サギが寄り付かず、ヤキモキしていた。前の週に、近所の見晴らしの利く場所で網を張っていたら、500m程離れた民家の大きな屋敷林に塒を発見してほっとした次第。目的どおり6種(案内の8種は誤植です。)のサギをじっくり観察しながら中川土手を歩いていると、ケリまで登場してくれた。塒の屋敷林付近で鳥合わせの最中、5時過ぎの10分間で約300羽のダイサギ等が飛来した。松伏町の探鳥会は初めての企画。塒入りを見るため土曜日の3時集合としたにもかかわらず参加された、埼玉地区を中心とした26人に感謝したい。来春にも探鳥会を計画するのでご期待を。

(橋口長和)

9月19日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 37人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ マガモ カルガモ オオタカ サシバ キジバト カワセミ アカゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 8月の大雨で高麗川の河川管理道路もあちこちで崩れ、天神橋はこわれて通行止め。地元の増尾リーダーから団体行動するためにはコースの変更をとの提言。高草木、青山、石井(幸)、増尾各リーダーが再度下見の結果、新しいコースを選定。高草木さんよりFAXの連絡。当日は、青山さんが、カラーコピーで素晴らしい案内状と、コース変更地図を用意してくれた。また、車で参加の方々のために集合時刻2時間前から待機してくれた。飯能市の天覧山で観察中の大塚さんに、高麗川で観察したサシバの情報を携帯電話で伝えたが、試みに終わった。復旧まで、当分は新コースで実施することになる。

(藤掛保司)

9月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 80人 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ キジ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 暑い夏が、少しは秋らしくなり、コガモが北から帰ってきた。新聞や浦和市報を見た参加者が20人程度と多く、三室名物のしあわせの黄色のリボンも品切れ! 早速例会後作成した。鳥の数はまだ少ないが、見沼田んぼには、新しい参加者を歓迎して、カワセミ、ゴイサギ、キジが出現して、楽しい探鳥会だった。

(楠見邦博)

9月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 21人

荒木恒夫、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大塚操、尾崎甲四郎、小池由美子、後藤康夫、佐久間博文、島田恵司、島田沙緒里、志村佐治、納谷美月、原島浩、藤掛保司、増尾隆、増田徹、松村禎夫、百瀬修、山野庸子

10月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 63人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ バン キジバト アマツバメ コゲラ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス (26種) 駐車場の上空を飛ぶアマツバメの鎌形の翼がよく見えた。高尾の池のアシ原にゴイサギの若鳥がたくさんいた。曇天と強風のためか鳥種も少なく、サシバも飛ばず、残念! モズの高鳴き、群れ飛ぶイワツバメとショウドウツバメ、足元に咲くツリフネソウが秋の訪れを告げていた。

(岡安征也)

この欄のタイトル引き続き募集中!!

もう何年も募集中なんです。どなたか描いてく
ださいませんか。現在の縦横比位で。大きくても
縮小できます。文字はこちらで入れることも可能
です。よろしくお願ひしま〜す。

連絡 中長

●環境庁へ要望葉書送付

当支部も会員となっている密猟対策連絡会(京都市)からの呼びかけに応じて、野鳥愛玩飼養制度の廃止・廃止できない場合の許可種数の削減・トリモチの捕獲方法項目からの削除の要望が印刷され、さらに当支部独自の要望として、有害鳥獣駆除制度の廃止または縮小・被害の実態に即した適切最小限の運用と申請段階からの公開制度などを追記した葉書を、環境庁自然保護局野生生物課鳥獣保護業務室宛てに郵送しました。

●本部の理事会議事録

本年5月27日に開催された定例理事会の議事録が送られてきました。

それによりますと、委任状出席5名を含めて、チャン・メイリン・アグネス、関東ブロック代表の西野正義(茨城県支部)ら合計23名の理事と、当支部監事でもある楠見邦博ら2名の監事、9名の事務局員が出席して渋谷区内で開催され、会長：黒田長久、副会長：岩垂寿喜男・塚本洋三、専務理事：西村邦男、常務理事：市田則孝・品田穰を選出したあと、事業報告・収支決算案の承認、諸規程の改正、部会・審議会の設置など、8議案について審議したとのことでした。(敬称略)

●新しい入会案内パンフレット

改正された会員制度に基づく新しい入会案内パンフレットができました。カラフルな印刷で、野鳥の会の活動、会員制度、入会手続について説明し、会費自動引き落としでも、郵便口座振替でも、どちらでも使えるようになっています。

役員・リーダー達は、支部事務局に立ち寄った際などに入手して、常に携帯してください。前の入会案内パンフレットは間違いのもとですから、すべて廃棄してください。

●会員の著書紹介

1997年11月のこの欄でご紹介した『庭にきた虫-いのちのドラマを親子でみる』という

ユニークな本を覚えてますか。

この度、その続編『庭にきた鳥-いのちのドラマを家族でみる』が出版されました。佐藤信治著、社団法人農山漁村文化協会(107-8668 港区赤坂7-6-1、TEL 03-3585-1141、FAX 03-3589-1387、URL <http://www.ruralnet.or.jp/>、振替 00120-3-144478)発行、定価1,950円です。

餌台の屋根の高さや深さを変えて、鳥達が最も使いやすい形を調べたり、甘さや容器の色を変えて、鳥の種類による好みの違いを調べたりする実験や、年間を通じて庭に来る鳥達とのふれあいが語られています。

著者の佐藤信治氏は、3年前に胃癌の宣告を受けた後も意欲的に観察、撮影、原稿とりまとめを続けていましたが、本年3月御逝去、本書が絶筆となってしまいました。

●11月の事務局 土曜と日曜の予定

- 13日(土) 編集会議、研究部会議。
- 20日(土) 校正作業。
- 21日(日) 役員会議。
- 27日(土) 袋づめの会。

●会員数は

10月1日現在3,045人です。

活動 報告

- 9月4日(土) リーダー研修会用資料準備(事務局)。
- 9月18日(土) 10月号校正作業(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。
- 9月19日(日) 役員会議(司会：橋口長和、各部の報告・環境庁への要望葉書・年末講演会・その他)。
- 9月27日(月) 10月号発送(倉林宗太郎)。

編集 後記

10月8日、今年もアイツがやって来た。去年と同じお気に入りの場所で、嘴を真っ赤に染めて、ドバトを喰っている。喰い終わると去年と同じお気に入りの場所で、いねむりを始めた。(山) アイツって何だ?(海)

『しらこぼと』1999年11月号(第187号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります)
 本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用